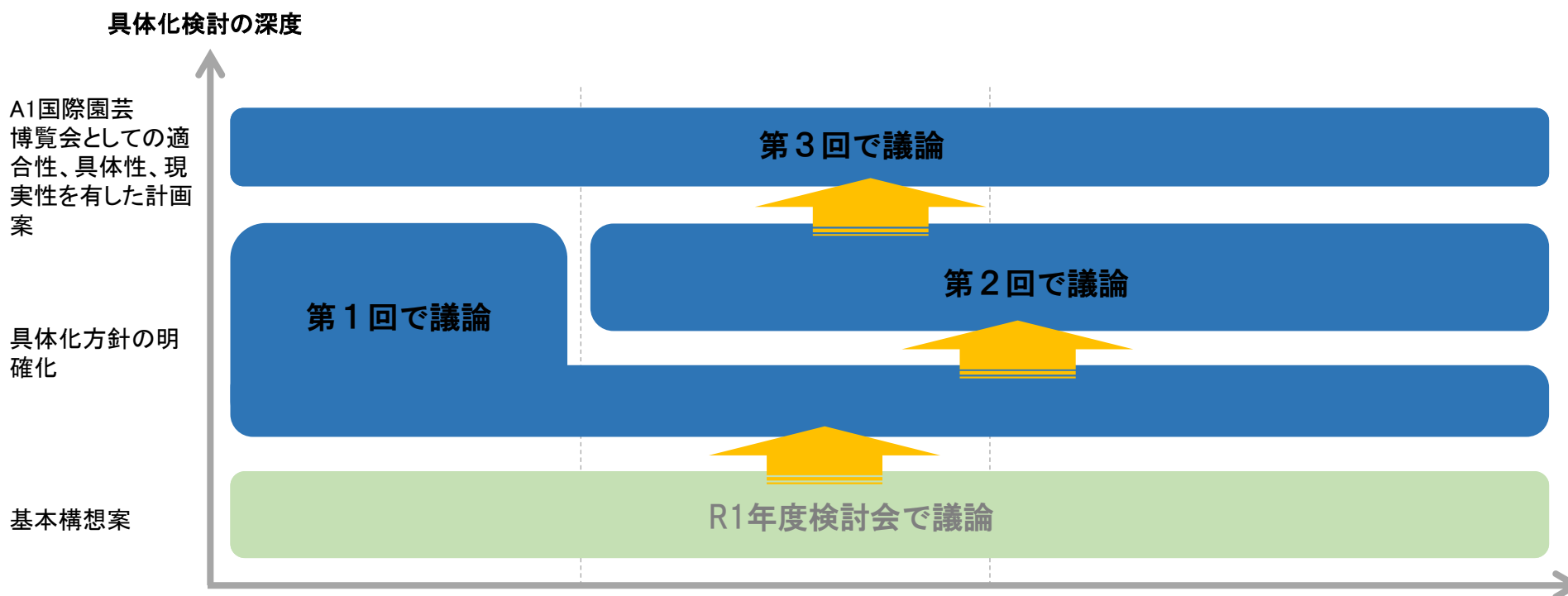


具体化検討会の進め方

令和2年10月30日

具体化検討会の進め方（イメージ）

- 具体化検討会は、検討項目毎に、A1クラスの国際園芸博覧会としての意義である、世界的な環境変化を踏まえた現在の国の政策を実現し主流化する役割（6つの視点+コロナなど）に適合しているか、また、その内容が具体的にイメージできるか、そして現実性を有しているか、という観点から、計3回の検討会で段階的に充実させることとしたい。



検討項目	I テーマの具体化について (開催意義)	II 事業展開等について	III 国際園芸博覧会 (A1)を開催する前提となる基盤整備及び現実性について	
対応する計画案の章	1. 基本認識 2. テーマ・サブテーマ・事業コンセプト	3. 参加方針 4. 会場計画 5. 事業運営 6. コミュニケーション計画	7. 輸送計画 8. レガシー計画 9. 事業スケジュール 10. 会場運営管理計画	11. 情報基盤計画 12. 資金計画 13. リスク管理計画

ご検討頂きたい主な論点について

I テーマの具体化について

- 「幸せを創る明日の風景」というテーマの下、具体的にどのような課題認識を経てサブテーマ、事業コンセプトを設定するのか。
- A1クラスの国際園芸博覧会として、①SDGsの実現による日本モデルの提示、②Society5.0の展開、③グリーンインフラの実装、④花き園芸文化の振興等を通じた農業・農村の活性化、⑤観光立国や地方創生の推進、⑥通信施設跡地の返還とまちづくり等の観点から、世界的な環境変化を踏まえた現在の国の政策を実現し主流化する役割を果たすため、国際園芸博覧会の場をどのように活用し、どのような解決策を得ることを目指すのか。
- 国際園芸博覧会の対象領域となる国が推進すべき政策分野として、上記の6つの例示に加え、どのようなことが考えられるか。（例：COVID-19後の新たな生活様式等）

II 事業展開等について

- テーマの具体化に向けた議論を踏まえ、コンテンツや会場計画をどのように具体化していくか。
- COVID-19感染拡大の記憶に学び、安全で快適な博覧会とするために、どのような工夫が必要か。
- 横浜地域にとどまらず、どのように国民的な機運醸成を図るか。また、一般市民、企業、海外からの参加国など、多様な主体をどのように巻き込んでいくか。
- 大阪・関西万博などの他のイベントとどのように連携し、シナジーを作っていくのか。

III 国際園芸博覧会（A1）を開催する前提となる基盤整備及び現実性について

- A1クラスの国際園芸博覧会として、相応しい会場構成・機能配置等となっているか。
- 会場基盤整備や輸送計画が具体的かつ現実的なものになっているか、あわせて想定入場者数、会場規模、事業費（費用負担等の事業構造を含む）及びスケジュールが適切か、これらが精査されたものとなっているか。
- 将来のまちづくりに継承される博覧会のレガシーをどのように作っていくのか。